



座談会 [出席者]

- **高橋一郎**  
西武信用金庫・常勤理事・業務推進企画部長／たかはし・いちろう
- **荻上健太郎**  
日本財団「わがまち基金」推進チームリーダー／おぎうえ・けんたろう
- **佐々木健介**  
NPO法人ETIC. インキュベーション事業部マネージャー／ささき・けんすけ
- **森橋真紀**  
府中・多摩川親の会代表／もりはし・まき
- **瀬戸 綾**  
NPO法人地域教育ネット／研進学院副塾長／せと・りょう

NPOの応援融資「CHANGE」を立ち上げた西武信用金庫、日本財団、NPO法人ETIC.のお三方、地域課題に取り組みお二人に参加いただき、課題解決に向けたこれからの活動のあり方を語ってもらった。

それぞれ違う立ち位置からの  
社会支援・地域支援

高橋 西武信用金庫では5年前に、「e.c.定期預金」という、預金者の利息の一部を

天引きさせてもらい、私どものお金と合わせて、環境NPOに助成する仕組みをつくりました。昨年は、これをパワーアップし、環境だけでなくすべての地域活動を対象に、日本財団さんのご協力のもと「街づくり定期預金」を始めました。同時に、融資の仕組みでNPOや団体の事業性を高めるお手伝いをしようと、昨年6月、「CHANGE」を立ち上げました。これは、日本財団さんの「わがまち基金」プロジェクトと、ET

# つなげる力 つながる力 つなげる力

西武信用金庫、日本財団、NPO法人ETIC. (エティック) それぞれのリソースを活かした社会支援  
新しい融資の仕組み「CHANGE」が目指すものは?

IC.さんの事業戦略のノウハウとの連携で、NPOなどを資金面と経営面の両方で応援する新しい融資の仕組みです。

荻上 日本財団は、もともとは「日本船舶振興会」という、造船業を振興しようとした財団です。さまざまな団体や企業に助成金を提供するなかで、船から海へ、海から人へと、活動の範囲を少しずつ広げてまいりました。また、お金を配るだけの社会貢献にとどまらず、財団としても社会や地域の課題に取り組み、その解決につながる仕組みづくりをしていこうということでした。

「わがまち基金」プロジェクトが生まれましたが、私たちは地域に根ざした存在ではないので、顔の見える関係性がなかった。それがあるのが、地域と密着して先進的な仕事をされてきた西武信用金庫だったのです。

佐々木 NPO・ETIC.は、学生起業家の全国ネットワーク組織として1993年に発足し、インターンシップを中心とするプログラムで、起業家の育成や支援を手がけてきました。2010年に内閣府と連携

キーワード

【わがまち基金】日本財団が、信用金庫など地域密着型の金融機関と連携し、NPOやソーシャルビジネスを応援するプロジェクト。2013年6月に発足、CHANGEはプロジェクトの第1号商品。

した「地域社会雇用創造事業」に参画、2年間で100名の社会起業家を生み出そうという野心的な取り組みをさせていた機会がありました。その際、いろいろな方にご相談させていただくなかで、金融機関の西武信用金庫さんとの接点ができました。そのご縁で、今回、NPOにはなじみのない融資の立ち上げにあたり、現場の応援でノウハウのあるわれわれに声をかけていただいたわけです。

**ニーズを理解してもらったための客観的なデータ**

森橋 私は、不登校や軽度の発達障害をかかえるお子さんが通う「フリースクール多



高橋一朗氏

**NPOの事業性を高めるお手伝いを**

摩川」から派生した、親たちの会「府中・多摩川親の会」の活動をしています。現在、小・中学校という既存の枠組みに適応できない子どもたちは行き場がないという状況に置かれています。家庭で抱え込んで悩んでいる親たちも多く、そこから虐待に走ってしまうケースもあります。

フリースクールに来られるお子さんはごく一部なのですが、そこに居場所を見出せ

るお子さんのために必要な場所です。でも、スクールを維持するには、場所とお金、人も必要です。所長が私費を投じてこれまでやってきましたが、資金が底をつくのは時間の問題で、毎月数万円かかる会費を上げるのも厳しいです。行政や助成団体の支援を仰ぐには、NPO法人にした方がいいのか、組織としての認知度を高めるにはどうすればいいのか、私たちにはノウハウがありません。スクールを存続させるためにどうすればよいか、お知恵をお借りできたらと思っております。

荻上 今森橋さんからいただいた、資金的な悩みへのストレートなお答えにはなりません。例えば日本財団は助成金を提供する以外にも結構いろいろやっているんです。例えば、NPO向けにさまざまなテーマのセミナーを開き、出合いの場を提供してあります。実質なんの COST もかけずに私たちが使っていただけ。起業塾も含め、新しいサポートが受けられるかもしれない。助成金以外にもさまざまな提供があるので、ぜひこうした既存のメニューを活用してい



荻上健太郎氏

**既存のメニューを活用していただきたい**

ただきたい。

また、NPO支援をしていて感じたのは、情報公開が非常に遅れている、団体としての運営、経営が成立していないところが多いということです。代表の方の熱い思いだけで突っ走っている。きちんと情報公開をして、NPO全体のレベルを上げていかないと社会的信頼は得られません。

瀬戸 私は、学習塾・研進学院の副学長と並行して、NPO地域教育ネットで、例えば学習環境の整っていない子どもたちの学習支援事業をしています。この支援事業は3年の枠組みで国からお金が出て、府中市から委託という形ですので、3年経てば支援は打ち切られます。まだ始まったばかり

**キーワード**

【インターンシップ】 大学在学中に、中小・ベンチャー企業やNPOで就業体験をする制度。ETICのプログラムには過去2,500人以上が参加、150名以上が起業した。6ページのNPO・フローレンスにも100名以上のインターン生を紹介している。

「わがまち基金」の3つの手段  
融資と助成とサポート  
これを上手に活用してほしい



## CHANGEで ステップアップ

2

### 新しいモノづくりで 社会にインパクトを

真珠に蒔絵をほどこしたピアス、微妙な色合いの京鹿の子絞りのシルクストール。日本の伝統工芸の技と現代ファッションのコラボから生まれるKARAFURUの製品。



黒田さんは、前にいた会社で歌舞伎の世界と出会った。色鮮やかな舞台衣裳やかんざしなど伝統的な飾り、その職人技に魅せられた。しかし、現場に足を運ぶうち、後継者不足、素材・道具不足でこの貴重な伝統文化が失われつつあることを知った。

「職人技を活かした新しいモノづくりをしたい！」という強い思いからKARAFURUを立ち上げた。幸い、内閣府とETICの連携による創業支援事業の助成金が受けられた。そこからETICや起業家コミュニティともつながり、自らの発信力もスキルアップ。

現在はネットショップとデパートなどでの販売がメイン。「今後は生産体制を強化して大きく展開していきたい」という黒田さんに昨年秋、西武信用金庫CHANGEの融資が決定。「伝統技術の継承」という社会貢献性が評価されたのだ。

KARAFURU  
(カラフル)



代表の黒田幸さん

なので手探り状態ですが、3年後も継続させていくにはどうしたらよいか。事業計画をしっかりとさせて、融資が受けられる態勢にしていた方がいいのでしょうか。アドバイスをいただければ。

荻上 「わがまち基金」には、融資と、助成金、サポートという3つのスキームがあります。今のお話ですと、いきなり融資というよりは、ちょっとした事業化ができるのであれば助成金という応援もあるかもしれません。あるいは、別の活動組織と連携して新しい事業にしたいが、まだ足りない部分があるということであれば、サポートの面で支援することも可能だと思います。3つの手段がありますから、いきなり融資でと

いうよりは、残り2つのスキームとうまく関わりをつくるといういかも知れません。

それから、行政との連携を考えると、NPOの皆さんは、よく要求から始めちゃうんですね。でも、要求する前にある程度調査した上での事実の提示をしてほしい。「こんなに困っているからなんとかしてくれ」という言い方ではなく、「今府中市ではこういう状況になっている、これだけ子どもたちが実際に困っている」といった、調査に基づいた客観的データの提示です。

高橋 行政でよく言うのは「ある程度の人数が言ってくれば、それは市民のニーズだから取り組めます」と。行政を動かすには、ある程度リサーチすることが必要ですね。

### CHANGEは ステップアップの手段のひとつ

佐々木 CHANGEは、これまでは融資対象にならなかったようなところも応援するという点が画期的です。今までわれわれはスタートアップの応援をやってきましたが、今回は融資という実弾的なリソースが提供されることで、ステップアップの支援ができます。ただ、ステップアップしていく上で、融資もひとつの手段で、かならずしも事業化しなければいけない、資金調達しなければいけないということではありません。もし、予算規模がこれまでと変わらずに継続的な仕組みづくりができるのなら、事業化は必要ないかも知れない。もちろん、運転資金を得て成長するぞとなれば、



佐々木健介氏

### 融資も、助成金も ひとつの手段

融資を活用していく。融資も助成金も、考えるきっかけのひとつとしてあるものです。

高橋 そうですね。無理に事業性を高めようとか、お金がないから借りるというのではうまくいきません。「わがまち基金」の根幹も、CHANGEの融資でNPOの事業性を高めていく、一方で、日本財団さんと

の連携による「街づくり定期預金」で寄付の文化を醸成していく、その両方を目指すものです。

**自分を磨き、外に目を向けよう  
「つながる力」をつくりだそう**

高橋 NPOの方たちは、意外とほかのNPOとつながりがなかったりする。でも、隣のNPOの皆さんも、実は同じようなことを考えていたりする。例えば子育てで悩んでいる方たちが、どこか自然の中でリフレッシュしたいと考えている一方で、里山



森橋真紀氏

**そこがほんとに  
欠けていた部分と…**

支援をしている環境NPOが、都会の人はこういう何もないところには来てくれないと思っている。どっちも困っていて、一緒にやるとうまくいって支援者が倍になる。ネットやウェブが発達しても、やはり地域で直に顔を合わせる人たちが本当の応援団になる、そういう出合いの場を作るのが、私どもはどちらかというと得意ですので、これからも積極的にお手伝いしたいと思っています。また、こうしたお互いにはない部分を補完しあって解決することは、今回のテーマである「協働」にもつながります。

荻上 私は「協働」という言葉を聞くとき、行政のあり方をどう変えるかといった文脈を強く感じるんですね。確かに行政と市民がいかに協働するかもひとつの課題ですが、これからはNPO同士、NPOと企業、あるいは地域金融機関といった民間同士の協働が大事だと思いますね。また、先ほど融資も手段だというお話がありましたけど、協働も目的ではなく、あくまでも手段と、この2点を大事にしていきたいと思っています。

佐々木 ただ、NPO同士だとどうしても、「いっしょに頑張ろう」とみたいな馴れ合いっぽくなりがちです。まずは、お互いに、どんなことができて出来ないのかを明確にしておくことです。どこと組むのがいいかという前に、自分たちは何なのかということとを磨いていくことが、結果的にいい協働につながるのではないかと思います

高橋 これからは少子化や高齢化など、問題はもつと増えていく——それを解決していくのはもう役所だけではない。高度成長期の時代は「役所事」でよかったことを、今度は「自分事」に戻していく。ただ、自



瀬戸 綾氏

**自分にできることを  
整理し、磨いていく…**

分ひとりでは解決できない。どこかとうまくつながることで自分たちの力を発揮できる場が広がる、その「つながる力」がとても大事です。同時に、自分たちも当事者であって、自分たちがつなげていく立場でもある。だから「つながる力」と「つなげる力」両方とも大事。

瀬戸 自分たちの役割分担を明確にしながらつながつていく、自分のできることを整理し、磨いていけば、支援いただける基盤も整ってくるということが分かりました。

森橋 行政や支援団体に、必要性を理解してもらうには、リサーチと事実の提示、ひとりではなく、つながつて訴えていくこと。そこがほんとに欠けていたと実感しました。

ネットやウェブが発達しても  
本当の応援団になるのは  
地域で顔を合わせる人たち

## 西武ソーシャルビジネス成長応援融資「CHANGE」 新年度より、募集拡大

西武信用金庫＋日本財団＋ETIC。  
3者連携で、地域課題に取り組みNPOを応援

西武信用金庫は、2014年度にNPOやソーシャルビジネスを対象とする応援融資「CHANGE」の募集頻度を上げる予定だ。

この商品は、0.1%という低い固定金利、最大500万円の「成長応援融資」と、多様な「経営応援プログラム」を組み合わせているのが特長。公益財団法人日本財団、NPO法人ETIC、西武信用金庫の3者が提携して、NPOやソーシャルビジネスなど、社会や地域の課題解決にチャレンジする組織を、資金面と経営面で応援する日本初の総合型成長応援融資である。

2013年9月に募集開始した第1期では、事業評価委員会による審査で、「伝統工芸技術を新たな切り口で商品化、継承する」「待機児童を減らす」等、事業における社会的なインパクトや革新性が認められた5件のNPO、企業に対して融資を実行。

2014年2月に締め切られた第2期募集については、現在審査が行われているところだ。

現在、東京都内で9,400、府中市では106のNPO法人が登録されているが、その多くが「運営」「継続」「採算」面での課題を抱えながら、目の前の活動に追われているのが現状だ。

「CHANGE」を企画した担当者は、この成長応援融資を活用することで、そうしたNPOにも新たな発展が期待できるのではとみている。

融資前、融資後の応援プログラムとして、「事業計画、戦略立案の講座、ワークショップ」「資金計画に関する個別相談会」「ネットワークづくりの交流イベント」などを用意するほか、融資利用者を対象に「先輩経営者との経営戦略会議」「若手人材マッチング支援」といった追加支援プログラムもある。

詳細についての問い合わせは下記へ

西武信用金庫（業務推進企画部・街づくり支援担当）

電話03-3384-6111（代表）



写真は、西武信用金庫やETICのワークショップ、セミナーの風景。

今日ここに来て、一歩踏み出せるような前向きの気持ちをいただきました。  
荻上 実際に地域で活動されている方たちを、人の毛細血管にたとえることがありません。大動脈に血液を流しても毛細血管まで血液がいかないと人間の身体は機能しないという意味で、日本にはまだまだたくさんのお金という血液がありますが、大動脈にばかり流れてしまい、毛細血管まで直接届

ける仕組みや関係性が築きにくい。そこに取り組まれてきた西武信用金庫さんという形で手を組むことができたのは、いわば必然だったのかなと思っています。  
高橋 信用金庫は株式会社ではなく、生協のような協同組織ですし、お金を出し合っ

て融通しあうという点でいえば、もともと協働の発想なのです。NPOの皆さんとうまくやれるとすると、そもそも発想が同じなので、我々も活動に協力させていただく立場がとりやすい。  
今回3団体で協働できたのは、お互いの力を認めてつながろう、新しいことにトライしていこうという考え方が共通していただからだと思います。自分たちだけではできないから連携し、連携することで新しいものが生まれる。これはチャレンジであり、ひとつのスタートになると思います。

### ●連絡先とホームページ

日本財団 TEL：03-6229-5111 <http://www.nippon-foundation.or.jp/>

NPO法人ETIC TEL：03-5784-2115 <https://www.etic.or.jp/>

NPO法人フローレンス TEL：03-5275-1161 <http://www.florence.or.jp/>

KARAFURU FAX：03-6369-3167 <http://www.karafuru.jp/>

### キーワード

【協同組織と信用金庫】信用金庫は、地域の会員が出資し、相互扶助を目的とする協同組織の金融機関。株式会社の銀行が株主の利益を優先するのに対し、地域の利益、発展を優先する。